

## ウクライナの軍隊には大きなナチ問題がある：元米兵が RT に語る

RT

February 28, 2023



ここに、ウクライナ・ナチスの徽章に交じって、ヒトラーの『我が闘争』が見える

**アメリカ人老兵 John McIntyre は、ウクライナで傭兵として一年を費やした後、ロシアに逃げた。**

ウクライナ軍におけるナチの影響力は絶対的だ、とジョン・マキンタイアは RT とのインタビューで主張した。ジョンは、ウクライナ軍のさまざまな部隊で傭兵としてほとんど 1 年間過ごした、元米兵である。彼は、キエフとモスクワ間で進行中の戦いの最中に、ウクライナ軍部隊の行動を目撃した結果、ロシアに寝返ったと言った。

マキンタイアは、オデッサからモルドヴァに渡った後、どのように逃走したかを説明した。「私は逃げなければならなかった」と彼は Murad Gazdiev に話した。「私は殺されると思った。私の家族が 300 ドルを用意してくれ、Chisinau まで行き、それからイスタンブールに渡り、そこからモスクワへ行った。」彼は正確にどこで、ロシア側に自分のことを知らせたのかは明らかにしなかった。

この元米兵は、ウクライナでの自分の経験を語り、なぜキエフの主義主張に幻滅を覚えたのか説明した。「私が来たとき、それは本当に驚きだった。あらゆる者が刺青をし、ナチの徽章をつけていた」と彼はガジエフに語った。彼はまた、極右イデオロギーがウクライナ

にとって、「これほどの大きな問題」だとは、自分が現地でいろいろ体験をするまでは、全く信じられなかったと認めた。

彼は加えて、ウクライナ軍に調子を合わせるために、自分が反ファシズム・反共産主義であることを、隠さねばならなかったと言った。何人か他の西側の傭兵も、直接、彼に話したという：「ロシア人がナチスではないのだ、我々がナチスなのだ。」

元米兵はウクライナ軍に1年間、勤務したが、今彼は、自分が十分な情報を集めた段階で、ロシアに寝返る計画を、常にしていたと主張している。ある時点で、ウクライナ軍によって犯された戦争犯罪について、誰かに話したとき、彼は「立場が危険になった」。マキンタイアは、暴露する者はスパイより厳しく扱われるという。

「誰でも白状したり、白状しようとしているとわかった者は、頭の後ろを撃ち抜かれる」と主張し、「多くの人々が、外国人を含めて行方不明になっている」と言った。



**[関連記事]** アメリカの高官が、ナチ協力者ツイートの嵐の跡を消している

テキサスの Fort Bliss でかつて、2年間兵役についたことのあるマキンタイアは、ウクライナ軍が活動的に市民を人間の盾として使っていると主張している。これは住居ビルの隣の地下室に部隊を駐留させるときなどで、その後、もしその領域が攻撃の目標になれば、ロシアがやったと言いたてる。このような攻撃が起こったとき、この事件を扱うニュース取材班は、「兵士たちでいっぱいこの家で、右も左も見せてくれないだろう」と彼は言う。

Carpathian Sech 大隊で仕事をした、この元傭兵は、戦争捕虜を処刑した人々を、個人的に知っていると言った。そこにはポルトガル、フランス、アルゼンチンからの外国人（報道関係？）も含まれているという。

「これは彼らにとって可笑しなだ。それは憎しみだ。彼らはロシア人を憎み、ロシア人を殺したが、彼らの民族抹殺を願っている」と彼は主張する。

「そして我々 [西側の者] は、こういう者たちを支持しているのだろうか？ そしてこの者たちが我々の同盟者だということか？ そして我々は、彼らを NATO の仲間に入れようということか？ しかも彼らは、ジュネーブ (協定) にさえ従えないのに？」——そう言って彼は、「もしこれが一般に知らされたら、アメリカでは大変なことになるだろう」と言った。



関連記事：ウクライナの「司令官」が ISIS 服の者と協議している

しかしアメリカは、ウクライナ軍に武器だけでなく、情報を与えることに直接かかわっている、と彼は言った。彼は、アメリカの海軍情報将官が、ウクライナの外国軍部隊と共同で仕事をしていたことを知っており、マキンタイア自身がある期間、そこで働いたという。「毎日のようにこの男は、接触者を呼び出し、場所や部隊の動きなどについて情報を聞き出していた」と主張した。

アメリカがウクライナに送る武器や備品は、しばしば闇市場に出回り、世界中の過激派の手に落ちている。これは、そこに野放図な腐敗が存在するからだ、と元傭兵は語った。

### [訳者 Greatchain 注]

世界をめぐる西側の宣伝を信じて、ロシアを懲らしめようと、ウクライナの前線に飛び込んでみれば、そこには予想と全く反対の、おぞましい限りの実態を見せつけられることになった、という仔細がここに語られている。この元米兵のウクライナ傭兵が、早い段階で決意して 180 度転向し、一年後には、ロシアに寝返ったというところがまた面白いではないか。

しかしここに意外性は全くないと言ってよい。最近の、特にここ数週間の西側とロシアのやり取りを観察していると、西側全体が、このような方向に向かって、否応なく引き込まれているような印象を与える。アメリカは大人の理性というものを放棄している。アメリカが駄々をこねれば、ロシアがこれを――あまり刺激しないように――たしなめるという関係が出来上がっている。これはアメリカ一筋のわが国政府にとっても、いい加減に決断のしどころだと思うが、いかが？